



せせらぎ



7/23/2003 発行

活動報告

～7/20/2003

1、延命寺検討会 5/28(2回目)・7/9/2003(3回目)

5/28: 当会の整備試案2件を、園上建設学院の中野先生の協力を得て綺麗な図にし提出、説明した。

①案は、現用水路を都整備地の中に引き入れてワンドを作り、そこに階段をつけて人が水と親しめるものとし、手前の延命寺境内の景観をそのまま延長して小熊笹を配する。グリーンロードを訪れる人々にとっても名所となることを予測して、植生は桜(南半分)と紅葉(北半分)とする。

②案は、現用水路の水路を蛇行させるに止まり、南半分には小熊笹、北半分には黒塚石を配して溪流の風情を醸す。都整備地には、武蔵野の面影を彷彿とさせる雑木を植える。

この2案に対して、「子育てネットワーク」より子供達が遊べる公園にして欲しいとの反論があり、この場所の意味と用水路の意義について議論した。最後に小平市公園緑地課の方から、隣接する旭の森公園の整備車両を通す道路を設置したい、との考えが明かされた。

7/9: 「子育てネットワーク」より、当会の試案①を基本とするが、より子供達への配慮をして欲しい旨の意見あり、了承。

これに対し公園緑地課は3mの道路は最北端の線路際に設置したものの、南半分は①案、北半分は子供達が永遊び出来る場所として掘り下げることが提示した。いわゆる折衷案だが、現地は900㎡の細長い土地で、3mの道路分もあり、当会はここに折衷案をとることに反対している。子供達の遊び場としては、隣接する「旭の森公園」もあり、すぐ東側には広大な「たけのこ公園」もあります。水を見れば子供はきっと入るでしょう。しかし、将来のことを考えると、この場所は「遊び場」ではなく、良質な景観としての「憩いの場」とするのが良いと思います。

当会では「子育てネットワーク」とも話し合い、公園緑地課にも理解してもらうよう努力したいと思います。次回検討会は9月下旬に開かれます。

次回で検討会は最終となりますが、この場所の整備の仕方、東京都と小平市の見解に若干のズレがあります。まずは小平市としての案をまとめることが優先ですが、次にはその案を東京都に認めてもらうために、側面から市をホローする必要があります。

毎月第三上曜日に武蔵野荘が当会に解放されることを利用して、小平市の東側の用水路散策「ふれあいウォーク」を5/17（参加者36名）・6/21（14）・7/19（11）に実施。

コース：西武新宿線花小金井駅南口10:00AM →小平ふるさと村→延命寺→あじさい公園→鈴木町親水公園→鈴木稲荷神社→武蔵野荘（昼食）→平櫛田中館→野草自然観察ゾーン→中央公園→西武国分寺線鷹の台駅14:00PM（歩行距離約9km）

第一回目の5/17日は沼さらいの前日で、生憎水が流れていなかったが、参加者からは「まだ知らぬ小平の緑を満喫出来た」との声が多かった。反省点を踏まえ、簡単な資料と地図を用意し、コースも昼食以降は同行はするものの自由形式に改めて第二回に臨んだ。この散策コースは今後も続け、市民の間に「まだ知らなかった新しい小平の発見」として普及させたい。8月はお休みで、秋には西側のコースも検討する予定。

問い合わせは事務局まで（042-345-6772 馬場）

（2011年6月10日）

3、小平霊園「さいかち窪」湧水池復活の請願

3/14日小平市建設委員会で満場一致で採択され、東京都にその旨通達された。都議会建設委員会でも6/20日審議され、東久留米市の「東久留米の水と景観を守る会」から提出された請願と併せて、満場一致で趣旨採択が為された。

今後、東京都公園緑地部が小平霊園で調査を行う時に立ち会うことになった。また、雨水利用については今後も学習会を開く予定。



4、グリーンフェスティバルの報告

5/11日（日）中央公園グラウンドにて開催。花や樹を愛する多くの善男善女が集まり、無料配布の土や鉢植えに長蛇の列を作ったり、親子で果箱作りを楽しむ姿が見られた。当会は竹炭・竹酢液を販売。商品自体の認知度が低かったこともあり、用意した数の半分の売り上げであったが、元は採れたので第一回目の参加としてはまずまずであろう。同時に、「市民版環境配慮指針づくり」のアンケート調査も実施したので忙しかったがお手伝いの努力もあり、90%を超える回答を得た。

また、会場の一角に国上建設学院の学生達の卒業記念の作品を展示したが、子供達が非常に興味を示したのが印象的であった。次回もまた展示し、簡単な説明を添えることに。初めての参加であったが、市内の緑関係の他団体とも交流が出来た。

5、「用水路 昔語り 第二集」発行に向けて

第二集に向けて聞き取りを続けてきたが、9件11名分の原稿が溜まったので、9月に印刷・発行を目標に編集に入ります。

この原稿の校正・編集・イラストだけでも興味のある方を募集しています！

6、秋の講演会

「用水路 昔語り 第二集」発行を受け、秋に講演会を開催します。前回は「水」がテーマでしたので、今回は「緑」の方面で講師を人選。目下交渉中。

今後の活動予定

7/25 定例会 中央公民館学習室3 19:00 ~21:00PM

8/22 定例会

9/20 武蔵野荘解放 ふれあいウォーク

26 定例会

「用水路 昔語り 第二集」印刷・発行

延命寺検討会最終回

雨水利用の学習会

10/ 講演会

延命寺公園整備について東京都に請願

会報「せせらぎ News6」印刷・発行

17 武蔵野荘解放 ふれあいウォーク

22 定例会



子どもの頃の小平の「水と緑」

佐野郁夫

昭和31年、小川西町生まれの私にとって、小学校低学年までは、隣が雑木林、裏に野火止用水という、まさに「水と緑」に囲まれた環境でした。中宿商店街もまだ砂利道の時代、野火止用水にはホタルやトンボがいました。カワトンボやオニヤンマ、今では希少種にもなっているムカシトンボなどもいましたし、雑木林には、もちろんカブトムシやクワガタが沢山いて、キンランなども見かけました。また、野鳥ではオナガやコジュケイを多く見かけ、その他の名も知らない小鳥がいたように思います。

その後近くの雑木林は伐採され、宅地化されましたが、今よりも造成の過程に時間があったように思います。伐採後の草地にススキ等が生え、マツムシやクワムシを捕りにいった記憶があります。また、防空壕があって、そこを秘密基地にして遊んだり、数本のこった木の中に象を思わせる根元がこぶになった何本も株立ちしているイヌシデの木を「象の木」と呼んで遊んだ記憶もあります。また、宅地用に区画造成されても、売れるまでは時間があり、パイオニア的植物が生えていくその遷移の過程が見られました。

野火止用水は、玉川上水よりも堀が浅く、抉れた岸部が子どもが通れるトンネル状になったりしていたので、よく冒険遊びのような遊びをしましたが、宅地化とともに生活排水が流れ込み、ドブ川と化していきました。中学の授業で取り上げて、ピーカーに灰色に汚れた臭い水を持っていったのを覚えています。

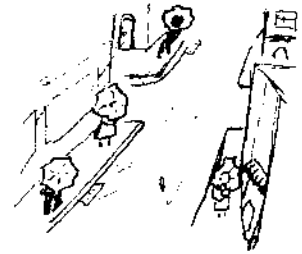
一方、野火止用水から自然が失われていった時期は、防火用水の水が育んだ自然を遊び相手にしていた時代です。今の防火用水は危険を避けるためと土地の有効利用として公園などの地下に作られています。当時は薔薇線に囲まれたオープンになっていたため、魚やトンボがいる、いわばビオトープと言われるような小さな生態系を作っていました。真っ赤なショウジョウトンボや真っ青なオオシオカラトンボ、そして憧れのギンヤンマがいましたので、大人の目を盗みながら薔薇線を潜って入り、怒られてばかりでした。

失われていたり、変化していく自然ですが、小さな水空間があるだけで、豊かな自然が生まれたことをあらためて思い出し、今の子ども達のためにその自然を作り、残してあげたいし、そうするのが今の大人の責務のような気がしています。

7月中旬ともなり、そろそろ梅雨が明けてもよさそうなのに、まだ気配もありません。日照り不足で農作物への影響はどうかとか、洗濯物が乾かないという悩みもさることながら、今夏に限って、東京の水不足の心配は無いでしょうネ、と天を仰いでいる毎日です。電力不足が必至の折から、せめて水だけは心置きなく使える夏であってほしいものです。

それにしても、東京に降る雨の総量は、統計によれば年間25億ℓを上回る、というデータがあります。ところが、この雨の全ては下水道を通して捨てられてしまうのですから驚異ではありませんか。

都会に降る雨は、大地を潤すこともなく、コンクリートやアスファルトで覆われた道路から下水に流され、住宅の屋根から雨水道を通して排水されてしまいます。地下水を涵養するはずの雨水の量は、都市化とともにすっかり減少してしまいました。元々、地表の水が蒸発し、雨となって地上に降り注ぎ、地中に浸透して湧水や川となって海に注ぐ・・・、という水の循環が、至る所で断ち切られてしまったのが、東京の町並みです。人口の急増により、緑地が減り、東京のヒートアイランド化は進行する一方です。こういう都市環境に暮らすのは本当に至難の技といっても過言ではありません。どうしたら、もっと快適な住環境を取り戻せるのか、身近なところから考え、実行に移して行くしかないでしょう。まずは、断ち切られた水の循環を見直し、私達が関われる取り組みに着手してみようではありませんか。



小平は武蔵野台地のほぼ中央に位置しています。多摩川の水を江戸市中に送水するために開削された玉川上水は、この台地の真ん中を西から東へ横断しながら貫流していて、武蔵野台地の、あたかも分水嶺のような存在であることを、私達に教えてくれます。玉川上水を境として、湧水群や川の水源地が南北に分かれているからです。

小平はこれまで平坦な土地で川が無いと言われてきました。とは言うものの、土地条件図などでじっくり小平全体を見つめ直してみると、海拔60～70mの緩やかな高低差があり、浅い谷底や窪地が存在しているのです。市内を自転車走ってみると実感出来ますが、起伏があって坂道の上り下りに息を弾ませる自然の地形を経験している方も多いことでしょう。山王窪、平安窪、天神窪、とかっては呼ばれていて、小平公園内の「さいかち窪」もその一つですが、そして更に、石神井川・出水川・黒目川などの、田無・東村山・東久留米市を貫流する川の水源地は、いずれも小平市に発していることに気付くはずですよ。

他方、かつては小平市の水道は地下水が用いられていた程、地下水にも恵まれていたのです。現に市内には井戸があり、市の防災用に指定されたり、日常的に活用されていたりします。小金井・国分寺・東久留米のように、市内に有名な湧水や川こそありませんが、地形的には、それらの水源地としての位置にあったのが、小平の地理的条件だったのです。いわば、小平に降る雨は、武蔵野台地の地下水となり、周辺地域の湧水群や川へ豊かな水を循環させる「要」となっていると断言してもよいでしょう。だからこそ、小平用水が敷設される条件が成立したと言えないでしょうか。

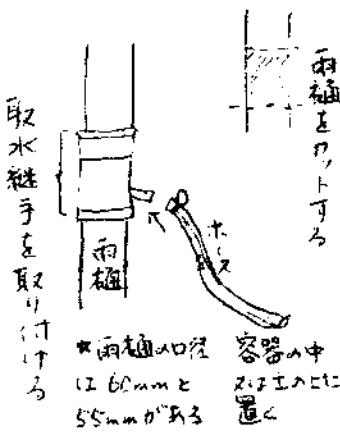
循環の要としての小平には、この地理的特色を生かしていく暮らし方が大事なのではないのでしょうか。まず、最近まで、すっかり邪魔者扱いされていた雨水ですが、雨樋から下水に流してしまうという勿体ないことをせず、敷地内にゆっくりと戻してやる工夫をしましょう。雨樋から集水するためには、専用のグッズ（取水継手）を取り付ければ簡単に雨水を取水することが出来ます。こうして貯めて、使ってから上に戻すか、取水してから直ぐに土中に浸透させるか、だけでも大切なことです。

【貯めて、使う】

バケツを利用するか、大きめのポリ容器を用意して、取水継手に取り付けられたホースから導水します。貯めた雨水は、ガーデニング、洗車などに使えます。いざという時の防災・防火用水として利用出来ます。雨は本来、蒸留水なので飲めますが、今日では大気汚染が進み、東京の雨水は飲料には不適です。しかし、沸かして飲むことは出来る水質です。水道水とは違いますが、金魚やメダカを飼育したり、野鳥の水遊び場が庭に生まれて、自然との触れ合いを楽しめるのも、雨水利用のプラス効果でしょう。

もし可能ならば、トイレの流し水に雨水を利用する方法もあります。飲める水を水洗トイレに使用するのには本当に勿体ないと考えれば、水の大切さを実感したり、その上で節水にもなり、経済的メリットが目に見えるので一石二鳥の効果があるでしょう。

「土に戻す」



右図の様に、取水継手のホースは、雨水をどこに戻すかによって長さを決めましょう。上のある所に置いてやれば浸透させる事が出来ます。もし、自宅の車庫がコンクリートになっている場合は、上のある所へホースを伸ばして、雨水を浸透させる工夫をして下さい。これから車庫にする人は、木道や砂利を敷きましょう。ブロック塀の代わりに、生け垣にするのも浸透には有効です。要は、雨樋を下水に直結するのを止めて、屋根に降る雨は可能な限り土中に戻してやる工夫を重ねてみる事なのです。

学校や公共施設、駅、病院など、大きな建物は雨水の貯留・浸透の効率も大きいので、新築・改修に際しては、法的義務が必要です。地域の水循環を考慮する建築・開発が求められます。

戦うべきは取り組みなのです。でも、小さい点が面に拡大すれば、小平の水循環に対する要の役割は無敵大になることでしょう。

是非、快適な住環境を取り戻しましょう。

「こだいろ 水と緑の会」は水を資源として捉え、水循環を大切に考えます。かって玉川上水が満水であった時、この地域の周辺、勿論小平市内もですが、湧水は豊富であったと聞きます。 当会では、雨水浸透を手軽に出来るグッズの販売をしています。定価1000円です。是非お宅で試してみてください。（連絡：042-407-2861 田中）

「水と緑のふれあいウォーク」実態について

須賀 美佐子

歴史ある用水路を散策するウォーキングを5月17日（土）と6月21日（土）に、下記のコースにて実施しました。

【午前のコース】

西武新宿線花小金井駅南口10:00AM →小平ふるさと村→延命寺→あじさい公園

→鈴木町親水公園→鈴木稲荷神社→武蔵野荘12:00PM（昼食）

【午後のコース】

武蔵野荘→平櫛田中邸→野草観察ゾーン→中央公園→西武国分寺線鷹の台駅14:00PM

（歩行距離約9km）

5月17日（土）

あいにくの小雨模様の中、市内・市外合わせて36名の方が参加されました。明日が沼上げの為用水路には水がなく、紫陽花の開花にはまだ早過ぎ、大雨にならなかったのがせめてもの救いでした。

資料不足・コース設定など反省点もありましたが、参加者から歩きながら「お茶の樹木の双葉を口に含むと仄かな味が広がり美味しい」ことや「普段歩けないような緑の中を歩いて良かった」等優しい言葉も聞かれました。

午後の新堀用水には水が流れていたのも、とても安心しました。

6月21日（土）

集合時間を30分繰り上げ花小金井駅南口10時集合として、前回コースに「小平ふるさと村」見学を加えました。午後の「平櫛田中邸」「ふれあい下水道館」にも寄りながら、鷹の台駅へ向かいました。午後は同行はしますが、フリーウォーキング形式で、自由に見学や解散としました。14名の参加です。

好天に恵まれ、公園の紫陽花は見事な数と色彩で、一番綺麗な季節を迎えました。武蔵野荘の用水路は風情があり、太陽の光が樹木に映え、緑が一段と濃くなっていました。今回はポイントの紹介や簡単な地図も用意出来たので参考になると思います。

市内一周のグリーンロードから、小平の発展に連なる意義ある用水路巡り。まだ知らない「こだいら」の魅力を見つけてみませんか。まだ参加されていない方は、是非一度お出かけ下さい。



ここに数枚のコピーがある。東久留米市にお住まいのM氏の好意で入手したものが、「新篇武蔵風土記稿」という昔書からの抜粋である。「新篇武蔵風土記稿」というのは、江戸幕府が文化・文政年間に編集したもので、幕府が各国の新風土記を全部作る方針を立て、それに基づいて作られたものだが、結局は武蔵と相模（未完）だけしか作られなかったものです。それでも全部で80冊あります。件のコピーは、明治に入った1820年頃の再版であるが、小川村・鈴木新田・廻り田新田・大沼田新田についての記述があり、小平の昔を知るに貴重な資料となっています。今回より、数回に分けてそれを紹介したいと思います。さあ、御一緒に歴史を紐解きましょう！

「小川村ハ群ノ長ニアリ村山郷ニ属セリコノ村近キ頃ハ野方領トモ唱フレトモ其実ハ前後ノ村ト同シク山田領ニ係レリ東ハコノ村ノ新田ニ境ヒ南ハ南野中榎本戸ニ村ノ新田ニ接シ西ハ砂川芋窪高木ノ村々ニヨリ北ハ野口村ニ至レリ其間西方砂川村ヨリ北方野口村ノアタリハ野火留用ホヲ以テカキリトセリ東西凡一里南ヨリ北ヘハ二十町ニアマレリ」

句読点がありませんし、現在の漢字と異なる字の使用もありますが、この当時の小川村の範囲が分かると思います。続きを読み進めます。

「検知ハ寛文九年岡上次郎兵衛近山五左衛門ノ兩人承リテ貢税ノ数ヲ定メリコノ辺武蔵野広野ノ所ユヘ西方平地ニテ民戸二百二十軒或ハ往来ノ左右ニ連住セリ野林多ク水田ハナク陸田ノミナリ村内古街道アリ道幅二間許府中ヨリ国分寺恋ヶ窪ノ数村ヲ経テココニ至ルコノ街道ノ内ヨリ北ヘ折レハ入間郡大岱及郡内久米川村ニ至レリ是鎌倉ヨリ陸奥ヘノ街道ナリシト」

当時から、この小川村には水田が無かった事や鎌倉街道が通っていたことが分かります。

「コノ村開闢ノコトヲ尋ルニ小川九郎兵衛トイヘル人ニテ郡内岸村ニ居リシヨシ明暦年中御代官今井九右衛門支配セシオリ武蔵野ノ内宇石塔ヶ窪ト号スル所開墾セシコトヲ訴タヘ御ユルシヲ得テ遂ニ其功ナリ又小川某開キシ地故小川新田ト言シカ後又カノ小川某ノ子孫次第ニ新田ヲ開キシカハソコヲ小川新田ト称シ始メニ開キシ小川新田ト言ヘルハ直チニ小川村ト称セルハ爰ノコトナリ」

小平市の開祖である小川九郎兵衛の記述があります。小川新田に対する小川村は、つい最近まで小川本田と称されていた辺りで、現在の小川一番から八番までに当たります。

「今ノ名主ナリ小川氏ニテコノ家ノ祖先小川次郎義治承ノ頃戦功アリシソノ子孫九郎兵衛ハ民間ニアリテコノ村ヲ開キシヨシ」

「承の頃戦功ありし」というのは祖先が北条に仕えていたという意味です。北条氏の城は八王子にもありましたので、そこに居たのかも知れません。豊臣氏に滅ぼされた後、武蔵村山の岸村に行ったわけです。地元で武蔵了党と呼ばれた家の一つです。この九郎兵衛が明暦年間に起立し、小川を寺弓としたのが小川寺です。また小川橋他二つの橋が玉川上水に掛かっていました。その玉川上水の桜についての記述です。

「小金井橋上下兩岸ノ桜樹數百株凡二里許ノ間ニ亘レリ是ハ川崎平右衛門定孝ノ栽ユル所ナリト言フ花時ノ盛ナル都會ノ人々遊賞スルモノ路ニ相ツツケリ小金井ノ桜トテ郊外ニ名高く人ノ知ル所ナリト言」



園堤櫻木上

会員募集中！！
 定例会毎月第四金曜日
 19:00 ~ 21:00PM
 小平中央公民館学習室3

関心のある方、是非御一緒に！

編集後記：徳富蘆花の「ミミズのたわごと」に昔の武蔵野の人々の暮らしがよく書かれている、と教えて下さる方があり、早速読破しました。武蔵野台地は平野で、雑木林も多く、全体としても水田は少なかったようですが、それでも春夏に掛けて猫の手も借りたい位に農家の人々が忙しかったこと。ぼうち眼を口づさみながら家族総出で麦を打つ風景、農繁期には広い稲敷にボツと、まだ年端の行かぬ子が妹や弟の子守をしている姿。人家もまばら故、夜になると静寂となり、遠くの松声に耳澄ましたこと。正月や花見、秋祭りには街道に屋台が出、村人が楽しんだ様子が等明治40年代の武蔵野の様子が彷彿されます。

当時の川の水の清さが、こんな文章で記されています。「個々の玉を散く鐘の七を、琴の相いの手弾く様な音立てて、金糸と閃く日野素して駈り行く水の清さは、まさしく滔てて流れる水晶である。」(瀧)

御問い合わせ・御質問は 042-345-6772(FAX, TEL) 馬場
 当会HP <http://www009.upp.so-net.ne.jp/water-green/>